

石川歩と共に郷鉄工所を食い散らかしたリッケン社（破産）元常務・山形光とファミリージャパン株式会社

はじめに

昨年破産申請した中部地方の老舗企業・郷鉄工所であるが、その戦犯の筆頭に挙げられるのは、石川歩である。石川案件が、会社を食い散らかした詳細は、既にお伝えした通りである。

なお、石川は現在、竹本直一衆議院議員と二人三脚で「一般社団法人ガスエンジン発電機協会」（以下、協会という）というのをやっている。理事に就任する五味洋司は、竹本議員の秘書である。実質は、石川歩と竹本先生の協会ということだろう。

石川の中学時代からの悪友・リッケン元常務・山形光

粉碎機やインフラ事業で堅実に経営を行っていた郷鉄工が、急におかしくなったのは、石川が持ち込んだ太陽光事業をやってからである。

事業と言っても、上場企業とは思えないようなデタラメの限りを尽くし、郷鉄工所第三者委員会から指摘されただけでも、十分刑事事件として扱えるものばかりである。

上場企業だった郷鉄工が、一方的に損害を被るようなスキームで、石川のお友達企業にカネをばらまいた末の悲劇である。

そんな石川がカネをばらまいた先に、リッケンという会社がある。

リッケンの郷鉄工取引の窓口は、元常務の山形光であった。山形は、石川の中学時代からの友人であり、郷鉄工の粉飾決算に加担した疑惑があると、第三者委員会調査報告書（以下、報告書）でも取り上げられているのは、以前お伝えした通りである。

そこで、今回は山形光について整理してみる。

ファミリージャパン株式会社 代表取締役副社長 山形光

山梨県甲府市を本店とするファミリージャパン株式会社という会社がある。昨年2月に設立された会社で人材事業を行っている。山形はこの会社の代表取締役に就任し、副社長になっている。本店は山形の自宅近くで、東京にも支店がある。

ファミリージャパンの代表者には、山形の他に黒田欣という人物がおり、黒田が社長である。

ファミリージャパン代表取締役・山形光のリッケン時代における郷

鉄工所粉飾決算加担疑惑

リッケン社はすでに破産手続きに移行しているが、山形は破産する直前までリッケン社の取締役であった。報告書では、郷鉄工とリッケン社との極めて不自然な取引の数々について調査対象となっており、挙句には、リッケン社は郷鉄工の粉飾決算に加担していたことが、調査結果より明らかになっている。

この郷鉄工の粉飾決算を主導した主要人物は、郷鉄工側が石川であり、リッケン社側の担当役員は、山形光であった。報告書においても、石川と旧知の仲の山形光が双方のキーマンであると認定されている。

上場企業だった郷鉄工所の太陽光事業を主導した石川は、旧知の仲の山形光が役員にいるリッケン社との間で、郷鉄工が一方的に莫大な損失を被るような極めて不自然な取引を、故意にやったとしか思えないようなルール無視の手法で行っていた。これらの具体的な方法や資料についても、既にお伝えした通りであるが、山形本人も「粉飾に加担する」ことの認識があったことが、上記の報告書でも指摘されている。

つまり、山形には、上場企業との粉飾決算加担疑惑と上場企業に莫大な損害をもたらした石川との取引の共犯疑惑まで存在するのである。

これらの不透明なカネの流れを国税につつかれ、追徴課税を納税できなかったことが、リッケン社破綻の原因と言われているが、そうであるなら、山形が役員であったリッケン社は、郷鉄工から多額の金銭を受領し、郷鉄工に戻さなければならない金額が億単位で残ったままということである。

そして、未納の多額の納税を放棄して破産したのである。管財人の調査には、多くの目が向けられており、しっかり職責を果たされ、犯罪証拠があれば告発なり相応の対応を望むところである。

話を戻すと、結局リッケン社は、郷鉄工から送金されたカネを、石川と山形が主導してリッケン社においてマネロンするために利用した利権装置にすぎなかつたのではないか？という犯罪疑惑が生じる。

しかも、納税もせず、破産申請しているのだから更に悪質である。

ファミリージャパン代表取締役・山形光の危険性

このような人物が代表にいる会社が、果たしてまともな会社なのか？

旧知の石川が、私利私欲のために郷鉄工所のカネを食い散らかすために利用した会社（リッケン）の担当役員だった人物である。リッケン側の担当者である山形が協力しなければ、石川が上場企業・郷鉄工所から多額の金銭を社外（リッケン）に移動させることはできなかつたはずである。この2人の共犯疑惑は濃厚である。実際、報告書でも、山形と石川の疑惑について検証され、山形が少なくとも郷鉄工の粉飾決算に加担した可能性について指摘している。

上場企業・郷鉄工からリッケンに渡った億単位のカネはどこに消えたのか？

郷鉄工所が一方的に損失を被る不自然な取引で、多額のカネがリッケン社に渡っている。両社のカネのやり取りは頻繁にあり、報告書とリッケン社の見解に大きな違いがあるようだが、報告書によると、郷鉄工に対するリッケン社の債務は少なくとも3億弱あり、リッケン社は債務承認の書類に捺印している。リッケン社には数億単位のカネを郷鉄工に対し返金する義務があるはずである。

そして、これらの取引の郷鉄工の担当は石川で、リッケン社の担当は山形であり、両者は中学時代からの旧知の仲である。

しかも、税金も払わず破産。

では、郷鉄工からリッケン社に不正に送金されたカネは、どこに消えてしまったのか？

計画倒産だったのではないのか？

というのは、大きな関心事であろう。

リッケンから産機テクノス（代表・武田英俊）に5億以上のカネが流れた？

報告書では、カネの流れの詳細が全く明らかにされていないが、今回、リッケン社から約5億円のカネが「ある会社」に還流され、マネロンされたのではないのか？
という独自の情報を入手した。

その「ある会社」とは、産機テクノス株式会社という会社である。

実際のところ、リッケンから産機テクノスに送金された証拠は掴めていないが、平成29年1月13日付で、産機テクノスからリッケンに対して約5億円の見積書が出されている。平成29年1月といえば、石川が郷鉄工を退社する寸前であり、郷鉄工のカネを食いつくし終わった頃である。また、見積書はガスエンジン発電事業に関するものであり、現在やっている石川の事業との関連性が極めて高い。

現状、見積もり通り実行されたのか定かではないが、「郷鉄工→リッケン→産機テクノス」に億単位のカネが流れたのではないか?というマネロン疑惑がここに存在する。

リッケンには国税が入ったらしいので、リッケンから産機テクノスに送金されているなら、把握しているかもしれないが、一応、産機テクノスからリッケンに出された当該見積書のコピーを送ります。

産機テクノス株式会社 謄本・H.P・見積書

⇒ 【資料1】～【資料3】

以上のカネの流れを完結させるためには、石川歩と山形光の連係プレーが必要である。実際、報告書でも両者の疑惑について指摘されている。

そうであるなら、山形も共犯として、上場企業・郷鉄工所の資金を食った可能性が十分考えられる。

念のため、山形が代表にいる「ファミリージャパン株式会社」と山形光の山梨県の自宅謄本等を送ります。

⇒ 【資料4】～【資料7】

「ファミリージャパン株式会社」について、新しい事があれば改めて報告します。